ル物件ヲ保護スルニ付テモ注意スルニ及ハサルトノ裁判言渡アリ

是レ附託人ハ其受託人カ怠慢ナル「ヲ知得シ居レハナリ

火災ノ場合ニ於テ受託人己レカ物件ノミヲ救護シ其附託ヲ受ケタル物件ヲ捨置キ救護セサリシ時ハ受託人ハ其物件ノ代價ヲ附託人ニ償フ可シ

附託ヲ受ケタル物件ヲ保護スル注意ノ適度ハ其物件ノ性質ニ因ル者トス

受託人其附託ヲ受ケタル物件ノ代價其表面ノ代價ヨリ高直ナルカ又ハ別段注意ヲ要ス可キ物件ナルカヲ知ラサル時ハ其物件ノ損失ニ付キ責ヲ受クル「無シ

〔第八百七十六條〕 佛國民法第千八百二十八條ト同シ

受託人ニ給料ヲ拂フ可キ契約アル時又ハ受託人其附託ヲ受ケタル

物件ヨリ利益ヲ得ル時ハ此附託ハ賃借ノ契約ナリトス

〔第八百七十七條〕 受託人ハ抗拒ス可カラサル力ニ因リ自己又ハ其代理人其受託ノ物件ヲ保護シ能ハサリシ時又ハ平常ノ場合ニ於テモ其物件ヲ竊取セラレタル時ハ其責ニ任セサル者トス（佛國民法第千九百二十九條ト異ナリ）

〔第八百七十八條〕 受託人ハ其物件ヲ使用スルヲ得ス但シ附託ノ馬ニ騎シ牝牛ヲ搾奶スルカ如キ之カ使用ヲ要スル者ハ格別ナリ（佛國民法第千九百三十條ト異ナリ）

〔第八百七十九條〕 佛國民法第千九百三十一條ト同シ

〔第八百八十條〕 佛國民法第千九百三十二條及ヒ第千九百三十三條ト同シ

若シ受託人其物件ヲ賣拂ヒ又ハ抵償ト爲シタル時ハ其物件ノ所有

者（即チ附託人）ハ之ヲ保有スル者ヨリ之ヲ取戻スノ權アリ而シテ之ヲ保有スル者公ケノ市場ニ於テ之ヲ買求メタル場合ニ於テハ受託人ハ保有スル者ヨリ買戻シ之ヲ其所有者ニ返還ス可シ

附託ノ物件滅盡シ得可キ性質ナルカ故ニ受託人其物件ヲ賣却セサルヲ得サル時ハ其附託人ニ之ヲ賣却シタル代價ヲ與フ可シ

〔第八百八十一條〕受託人ハ其附託ヲ受ケタル物件ニ損害ヲ加ヘタル者ニ對シ其償ヲ得ント訴フルノ權アリト雖モ此償トシテ得タル金員ハ附託人ニ引渡ス可シ（佛國民法第千九百三十四條）

〔第八百八十二條〕受託人ノ遺囑ノ財產執行人ハ其遺囑者カ附託ヲ受ケタル物件ヲ賣拂フタル時ハ假令ヒ其附託ノ事ヲ知ラスシテ之ヲ賣拂ヒシ時ト雖モ此物件ハ代價ニ付キ其責ニ任ス可シ（佛國民法第千九百三十五條ト異ナリ）

〔第八百八十三條〕受託人ハ其附託ヲ受ケタル物件ト其物件ヨリ生スル增殖即チ附託ヲ受ケタル獸類ノ子ノ如キハ共ニ附託人ニ返還ス可シト雖モ牝牛ヲ擠奶シテ得タル牛乳ノ如キ其附託ヲ受ケタル物件ヨリ生スル利益ハ受託人義務相殺ノ名義ニ於テ之ヲ占有スルヲ得可シ（佛國民法第千九百三十七條）

〔第八百八十四條〕佛國民法第千九百三十七條ト同シ

〔第八百八十五條〕受託人其附託ヲ受ケタル物件附託人ニ屬セスシテ眞ノ所有者ヨリ之ヲ取戻サントノ求ヲ受クル時ハ之ヲ此眞ノ所有者ニ返還ス可シト雖モ若シ其者眞ノ所有者ナルヤ否ヤニ疑惑アル時ハ受託人ハ其附託人ト其所有者ナリト言掛ケヲ爲ス者トヲ裁判所ヘ召喚セシム可シ（佛國民法第千九百三十八條）

〔第八百八十六條〕附託人ノ死去セシ場合ニ於テハ其物件ヲ其相續人

ニ返還ス可シ（佛國民法第千九百三十九條）

〔第八百八十七條〕 附託ヲ爲シタル婦女婚姻ヲ行フ時ハ其附託ヲ受ケタル物件ヲ其夫タル者ニ返還ス可シ又附託人後チニ瘋癲トナリタル時ハ其物件ヲ其管財人ニ返還ス可シ（佛國民法第千九百四十條）

〔第八百八十八條〕 後見人ヨリ附託ヲ受ケタル物件ハ幼者ノ丁年ニ達スルニ至リ之ヲ其幼者タリシ者ニ返還ス可シト雖モ遺囑ノ財產執行人又ハ遺留財產ノ管理人ヨリ附託ヲ受ケタル物件ハ之カ許諾ヲ經ルニ非サレハ之ヲ其財產ノ相續人又ハ受贈者ニ返還スルヲ得ス（佛國民法第千九百三十九條及ヒ第千九百四十二條）

〔第八百八十九條〕 佛國民法第千九百四十二條第千九百四十三條ト同シ

〔第八百九十條〕 受託人ハ其物件ノ所有者ニ抗拒シテ其物件ヲ抑留スルヲ得ス若シ受託人其物件ヲ引渡スヿヲ肯セサル時ハ其間意外ノ事變ニ因リ其物件滅盡スルモ怠慢ニ因リ滅盡セシ者ト等ク其責ニ任ス可シ但シ他人ヨリ其物件ノ訟求ヲ受ケタル間ニ同上ノ事變ニ因リ物件ノ滅盡シタル時ハ格別ナリ（佛國民法第千九百四十四條）

〔第八百九十一條〕 佛國民法第千九百四十九條及ヒ第千九百四十七條ト同シ

〔第八百九十二條〕 受託人其物件ヲ保全スル爲メ支出シタル費用ヲ其附託人ヨリ償ハシムルニハ其物件ニ付キ先取ノ權ヲ有ツ者ノ如シ（佛國民法第千九百四十八條）

〔第八百九十三條〕 旅店ノ主人ハ其旅客ヨリ受託スル物件意外ノ事變ニ因リ滅盡セシ時ハ尋常ノ附託ノ契約ト異殊ニシテ賃借ノ契約ト等ク其物件ニ付キ諸般ノ責ニ任ス可シ

但抗拒ス可カラサル力ニ因ルカ又ハ旅客自カラ其物件ヲ管守シテ旅店ノ主人ニ附託ヲ爲サスシテ旅客自己ノ怠慢ニ因リ其物件ヲ管守セサリシ時ハ旅店ノ主人其責ニ任スルナシ又旅店ノ主人ハ其受託セル物件ヲ竊取セラレタル時ハ其責ニ任ス可シト雖モ其旅客ノ從者又ハ同伴ノ者之ヲ竊取シタル時ハ格別ナリ（佛國民法第千九百五十二條乃至第千九百十四條）

〇第三章　爭論アル物件ヲ人ニ附託スル事

〔第八百九十四條〕　佛國民法第千九百五十五條乃至第千九百五十八條及ヒ第千九百六十條第千九百六十一條ト同シ

爭論アル物件ノ受託人ハ衡平裁判所ヨリ任命セラレ其裁判所ノ官吏ト看做サレ該裁判所ノ命令ヲ遵守ス可キ者ニシテ其物件ヲ管守スルハ猶ホ裁判所ニ於テ之ヲ管守スルト等キ者トス

受託ノ物件ニ付キ爭論ノ結了セシ時ハ受託人其物件ヲ管守セシハ爭論スル一方ノ者權理アリテ之ヲ管守セシ者ノ如ク看做ス可シ

〇第十二篇　偶生ノ契約

〇第一章　遊戲及ヒ賭博

〔第八百九十五條〕　普通法ニ依レハ打牌又ハ「デエー」等ノ遊戲ハ正意ヲ以テ行樂ノ爲メソミニ之ヲ爲スハ禁セサル所ナリ賭博ハ公ケノ安寧ヲ害セス又ハ過多ノ利ヲ得ントノ目的ナキ時又ハ下民ニ遊惰ノ感觸ヲ來タシ又ハ其財用ヲ誤ラシムルヿナキ時又ハ人ヲ侮辱ニ陷ラシメサル時又ハ警察規則ヲ犯サヽル時ハ之ヲ爲スヲ得可シ

同上ノ場合ニ於テ遊戲又ハ賭博ヲ爲ス者ハ其失フヽル金高ヲ取戻サント訴フルヲ得可シト雖モ其賭錢過多ナル時ハ此遊戲ヲ以テ犯罪ト看做シ而シテ此賭博ハ法律ニ反スル者ト爲ス可シ

拳鬪ニ類スル賭博ハ法律ニ反スル者トス（佛國民法第千九百六十五條乃至第千九百六十七條ト異ナリ）

〔第八百九十六條〕打牌（デエー）打毬、競馬、競走、競車等ノ如キ偶生ノ事ニ關スル遊戯或ハ身體ヲ輕捷ナラシムル可キ遊戯ニ於テ一百（リーフル）以上ノ金高ヲ失フタル者ハ其金高ヲ拂フニ及ハスシテ其遊戯ニ勝ヲ得タル者ハ賭錢高ノ三倍ニ當ル罰金ヲ拂ヒ而シテ其罰金ノ半額ハ國王ニ入レ他ノ半額ハ之ヲ告訴セシ者ニ付與スル者トス

然レ𪜈競馬ニ於ケル賭博ノ金高五十（リーフル）以上ナルモ善意ニシテ勝ヲ得タル者ハ其金高ヲ得ント裁判所ニ訴フルヲ得可シトス

〔第八百九十七條〕法律ニ反スル遊戯ノ負債ヲ拂フ可キ契約又ハ證券ノ類ハ總テ其効ナカル可シ又其負債ヲ借用金ト爲シ或ハ之カ拂方ヲ擔保スル書入質ノ契約ハ亦其効ナカル可シ

遊戯ノ爲メ已ニ拂フタル金高十（リーフル）以上ナル時ハ其敗ヲ取リタル者之ヲ取戻サント裁判所ヘ訴フルヲ得可シ若シ又其敗ヲ取リタル者之ヲ訴求セサル時ハ何人ヲ論セス其勝ヲ得タル者ニ對シ訴訟ヲ爲シ之ニ其金高ニ三倍スル罰金ヲ科セシムルヲ得可シトス然レ𪜈法律ニ反スル賭博ニ付テハ勝ヲ得タル者已ニ金高ヲ受取リ之ヲ他人ニ附託シタル時ハ其敗ヲ取リタル者之ヲ取戻サント訴求スルヲ得ス

〇第二章　畢世間ノ年金ノ契約

〇第一款　畢世間ノ年金ノ契約ヲ適法ノ者ト爲スニ必要ナル條件

〔第八百九十八條〕畢世間ノ年金ハ金高ヲ得可キ動産又ハ不動産ヲ得テ充償ノ名義ニ於テ之ヲ與フルヲ得又ハ單純ノ贈遺ニ因リ不充償

ノ名義ニ於テ之ヲ與フルヲ得可シ又ハ單ニ無償ノ贈與ヲ得可シ

畢世間ノ年金ハ土地ノ上リ高ヲ以テ設定スルヲ得可シ此場合ニ於テハ此土地ヲ所有スル者其義務ヲ續行ス可シ

畢世間ノ年金ヲ設定スル證書ハ其契約ノ日附、契約者雙方及ヒ證人ノ名氏、年金ヲ受ク可キ者ノ名氏、年金ヲ設定シタル原因及ヒ年金ノ高トヲ記シタル抄摘書ヲ以テ其契約ノ日ヨリ三十日內ニ官ノ帳簿ニ登記ス可シ然ラサレハ年金ノ契約ハ其効無カル可シトス（佛國民法第千九百六十八條及ヒ第千九百六十九條ト異ナリ）

〔第八百九十九條〕佛國民法第千九百七十一條第千九百七十二條第千九百七十三條中第一項及ヒ第千九百七十四條ト同シ

〔第九百條〕畢世間ノ年金ノ高多分ナルモ之ヲ以テ貪ニ出テタル契約ト爲ス可カラス然レトモ詐欺ニ成リタル場合ニ於テハ其契約ノ効無

カル可シ（佛國民法第千九百七十六條）

○第二款　年金契約者雙方ノ間ニ於ケル其契約ノ功効

〔第九百一條〕佛國民法第千九百七十七條ト同シ

〔第九百二條〕土地ノ上リ高ヲ以テ年金ヲ設定シタル時ハ其年金ヲ拂フ可キ義務アル者之ヲ拂ハサルニ於テハ之ヲ受ク可キ權理アル者其義務者ニ對シ單ニ人權上ノ訴訟ヲ爲スカ又ハ此土地ヲ保有セシ爲メ物權上ノ訴訟ヲ爲スカヲ撰フヿヲ得ルモ此兩箇ノ訴訟ヲ併行スルヿ能ハサリシカ方今ニ至テハ此兩箇ノ訴訟ヲ併行スルヿヲ契約セスシテ此種ノ年金ヲ設定スル者甚タ稀ナリ（佛國民法第千九百七十八條ト異ナリ）

〔第九百三條〕佛國民法第千九百七十九條ト同シ

〔第九百四條〕佛國民法第千九百八十條第一項ニ準則ス但シ之ニ反スル契約アル時ハ格別ナリ

〔第九百五條〕佛國民法第千九百八十一條第千九百八十二條及ヒ第千九百八十三條ト同シ

○第十三篇　名代ノ證書

○第一章　名代ノ證書ノ本義及ヒ法式

〔第九百六條〕佛國民法第千九百八十四條ト同シ

〔第九百七條〕名代人ハ口述ニ於テ之ヲ任スルヲ得又ハ書面ニ因リ之ヲ任スルヲ得可シ然レ𪜈有印ノ證書ニ因ルニ非サレハ其名代人ヲシテ事務ヲ執行セシムルヲ得サル場合ニ於テハ有印ノ證書ニ因リ之ヲ任ス可シ（佛國民法第千九百八十五條ト異ナリ）

〔第九百八條〕名代人ハ謝金ヲ出サスシテ之ヲ任スルヲ得可シト雖モ凡ソ他人ノ依賴ニ因リ事務ヲ取扱フ者ハ習慣ニ因リ謝金ヲ得ント訴フルヲ得可シ（佛國民法第千九百八十六條ト異ナリ）

〔第九百九條〕佛國民法第千九百八十七條ト同シ

〔第九百十條〕名代人ニ付與シタル權限ノ如何ヲ知ルハ理論上ニ非スシテ寧ロ事實上ノ論議ナリ若シ不動產ノ讓渡又ハ其書入質ニ關スル名代人ハ有印ノ證書ニ因リ之ヲ任ス可シトス（佛國民法第千九百八十八條ト異ナリ）

〔第九百十一條〕名代人其名代ノ證書ニ記シタルヨリ以外ノ事ヲ爲シタル時ハ本人ハ其責ニ任セスト雖モ總理代人ノ執行シタル行爲ニ付テハ縱令ヒ己レカ權理ヲ害セラルトスルトアルモ其責ニ任ス可キ者トス（佛國民法第千九百八十九條）

〔第九百十二條〕凡ソ人ハ幼者、結婚ノ婦、准死者ト雖モ皆名代人トナルヲ得（佛國民法第千九百九十條）

○第二章　名代人ノ義務

〔第九百十三條〕佛國民法第千九百九十一條及ヒ第千九百九十二條ト

同シ

名代人ハ自己ノ物品ニ於ケルト等ク懇切ニ其本人ノ物品ヲ用ユル時ハ己レカ從僕ニ因リ其物品ヲ竊取セラレタルヿアルモ其責ニ任セサル者トス

〔第九百十四條〕佛國民法第千九百九十三條ト同シ

〔第九百十五條〕名代人ハ其受任ノ權ヲ他人ニ讓與スルヲ得ス何トナレハ其本人ノ信憑ハ單ニ其名代人ノ一身上ニ限リタル者ナレハナリ而シテ本人ハ己レノ許諾セシ者非サレハ其名代人ノ代人タリシ者ノ行爲ニ付キ義務ナカル可シ

名代人ヨリ撰任ヲ受ケ之ニ代テ事ヲ爲ス者ハ直ニ使役ヲ受クル者即チ其名代人ニ對シ代人タルノ功アリテ眞ノ本人ニ關係ナキ者トス（佛國民法第千九百九十四條ト異ナリ）

〔第九百十六條〕名代人ハ權ヲ數人ニ委任シタル時ハ假令ヒ此數人ノ中一人死去スルカ又ハ名代人タルヲ辭退スルヿアルモ其他ノ者ノ共力ナクシテ獨リ其權ヲ行フヲ得ス（佛國民法第千九百九十五條）

〔第九百十七條〕名代人其本人ノ金高ヲ受取リ之ヲ己レカ手元ニ差措クモ其利息ヲ拂フニ及ハスト雖モ本人ハ己レカ物件ヨリ生シタル諸般ノ利益ハ之ヲ名代人ヨリ受取ル可キノ權アリ但シ名代人ニ之ヲ放棄スル旨ヲ明約セシ時ハ格別ナリ又名代人其本人ノ金高ヲ自己ノ使用ニ供セシ時ハ其利息ヲ拂フ可シ但シ必定本人ノ許諾ヲ受ク可キ方法ニ於テ之ヲ使用セシ時ハ格別ナリ（佛國民法第千九百九十六條）

〔第九百十八條〕佛國民法第千九百九十七條ト同シ

然レトモ名代人本國人ニシテ外國人タル本人ノ爲メ英國內ニ事ヲ取扱フ時ハ此本人ニ付キ其責ニ任ス可シ

○第三章　本人ノ義務

〔第九百十九條〕佛國民法第千九百九十八條第千九百九十九條及ヒ第二千條ト同シ

〔第九百二十條〕名代人其事務ヲ行フニ付キ本人ニ立替ヘタル金高ノ利息ハ之ヲ得可キノ權ナカル可シ但シ或種ノ商業ノ習慣ニ依ル者ハ格別ナリ（佛國民法第二千一條ト異ナリ）

〔第九百二十一條〕佛國民法第二千二條ト同シ

○第四章　名代契約ノ終ル可キ種々ノ方法

〔第九百二十二條〕佛國民法第二千三條ト同シ

名代ノ契約ハ亦其受任セシ目的ノ結了スルニ因リ終ル可シ

〔第九百二十三條〕名代ノ契約ヲ解除スルハ其契約ノ全體ニ及フ可シ但シ他ノ契約ヲ執行スル爲メ此名代ノ事ヲ其一部トナシタル時ハ

格別ナリ

名代契約ハ名代人ニ償ヲ出サスシテ之ヲ解除シ得サル時ハ其名代人ハ解任ノ場合ニ於テ之カ償ヲ受ク可シ（佛國民法第二千四條）

〔第九百二十四條〕佛國民法第二千五條第二千六條ト同シ

〔第九百二十五條〕名代人ハ其委任ヲ辭退スルヲ得ルト雖モ本人ニ此旨ヲ通知ス可シ而シテ此委任ヲ辭退スルニ因リ本人ニ損害ヲ生スル時ハ之ヲ償フ可シ但純粹ナル好意又ハ無償ニシテ名代ヲ爲ス者ハ此限ニ在ラス（佛國民法第二千七條）

〔第九百二十六條〕本人ノ死去シタル後名代人ノ記シタル證書ハ他人正實ノ意ヲ以テ其名代人ト契約セシ者ナルモ亦其効ナカル可シ（佛國民法第二千八條及ヒ第二千九條ト異ナリ）

〔第九百二十七條〕死去セシ名代人ノ相續人ハ其死者ノ受任セシ權力

別ナリ（佛國民法第二千二十一條乃至第二千二十四條ト異ナリ）

〔第九百三十五條〕佛國民法第二千二十五條ト同シ

○第二款　負債主ト保證人トノ間ニ於ケル權理義務

〔第九百三十六條〕主タル義務者ノ爲メ辨濟ヲ爲シタル保證人ハ此義務者ニ對シ返濟ヲ得ントヲ訴フルヲ得（佛國民法第二千二十八條）

〔第九百三十七條〕佛國民法第二千二十九條ト同シ

〔第九百三十八條〕本人義務ヲ行フ可キ期限ニ至リシ後保證人ニ於テ之ヲ行ハサルヲ得サル時ハ其保證人ハ其本人ニ對シ己レ保證ノ義務ヲ免レント衡平裁判所ヘ訴フルヲ得可シ（佛國民法第二千三十二條ト異ナリ）

○第三款　保證人數名ノ間ニ於ケル保證ノ効

〔第九百三十九條〕佛國民法第二千三十三條第一項ニ準規ス

資力ナキ保證人ノ義務ハ他ノ保證人等ニ於テ之ヲ分擔ス可シ

○第三章　保證ノ義務消滅スル事

〔第九百四十條〕佛國民法第二千三十四條及ヒ第二千三十六條第一項ト同シ

〔第九百四十一條〕保證人ハ債主ヨリ其特權又ハ此他ノ擔保ヲ放棄シタル事アルニ因リ其割合ニ於テ保證ノ義務ヲ免ル可シ（佛國民法第二千三十七條）

〔第九百四十二條〕債主ハ保證人ノ承諾ヲ經スシテ負債主ノ義務ヲ解放セシ時ハ保證人ハ其保證ノ義務ヲ免ル可シ（佛國民法第二千三十八條）

〔第九百四十三條〕債主其保證人ノ承諾ヲ經スシテ負債主ニ延期ヲ與ヘタル時ハ保證人ニ對シ己レカ權理ヲ失フ可シ（佛國民法第二千三十八條ト異ナリ）

○第十五篇　和解

〔第九百四十四條〕雙方ノ者ハ和解ノ契約ニ因リ其雙方ノ間ニ生シタ

ヲ以テ名代ノ事ヲ爲スヲ得ス（佛國民法第二千十條）

○第十四篇　保證

○第一章　保證ノ本義及ヒ其定限

〔第九百二十八條〕　佛國民法第二千十一條及ヒ第二千十二條ト同シ

〔第九百二十九條〕　一般ニ保證ハ主タル義務ヨリ其定限ヲ大ニセスト雖モ契約ノ旨趣ニ由リ保證人ハ主タル義務者ヨリ其責任ノ大ナルヿアル可シ（佛國民法第二千十三條）

〔第九百三十條〕　保證ノ事ハ必ス之ヲ契約書ニ記ス可シ然レ𪜈契約者雙方ノ名氏擔保ニ關スル義務又ハ保證人ヲ定ムル原由ヲ記スルヲ以テ其保證ノ定限ヲ記スルニ及ハサル者トス（佛國民法第二千十五條）

〔第九百三十一條〕　總テノ損失ヲ保證スルノ義務ハ主タル義務及ヒ之ニ附帶シタル諸件モ亦之ヲ擔保スル者トス（佛國民法第二千十六條）

〔第九百三十二條〕　裁判所ニ保證ヲ差出ス可キノ場合ニ於テ此保證人ト爲ル可キ者ハ己レ不動產又ハ動產等ヲ所有シ其責ニ任ス可キ充分ノ資力アルヿヲ證明ス可シ（佛國民法第二千十八條及ヒ第二千十九條）

〔第九百三十三條〕　一般ニ債主其負債主ノ立テタル保證人ヲ承諾シ後ニ其保證人己レノ義務ヲ盡スヿ能ハサルニ至リシ時ハ其負債主ニ對シ更ニ保證人ヲ立ツ可シト求ムルヲ得ス但別段ノ契約アル時ハ此限ニ在ラス（佛國民法第二千十條ト異ナリ）

○第二章　保證ノ効

○第一款　債主ト保證人トノ間ニ於ケル保證ノ効

〔第九百三十四條〕　保證人ハ債主ヨリ先ツ負債主ニ係リ訴訟ヲ爲サヽリシ時ト雖モ此負債主ノ爲メ自カラ辨濟ヲ爲ス可キノ義務アリ但シ其保證人ハ先ツ本人ノ財產ヲ以テ返濟ニ充ツト訴訟ヲ爲ス時ハ格

別ナリ（佛國民法第二千二十一條乃至第二千二十四條ト異ナリ）

〔第九百三十五條〕佛國民法第二千二十五條ト同シ

○第二款　負債主ト保證人トノ間ニ於ケル權理義務

〔第九百三十六條〕主タル義務者ノ爲メ辨濟ヲ爲シタル保證人ハ此義務者ニ對シ返濟ヲ得ント訴フルヲ得（佛國民法第二千二十八條）

〔第九百三十七條〕佛國民法第二千二十九條ト同シ

〔第九百三十八條〕本人義務ヲ行フ可キ期限ニ至リシ後保證人ニ於テ之ヲ行ハサルヲ得サル時ハ其保證人ハ其本人ニ對シ己レ保證ノ義務ヲ免レント衡平裁判所ヘ訴フルヲ得可シ（佛國民法第二千三十二條ト異ナリ）

○第三款　保證人數名ノ間ニ於ケル保證ノ効

〔第九百三十九條〕佛國民法第二千三十三條第一項ニ準規ス

資力ナキ保證人ノ義務ハ他ノ保證人等ニ於テ之ヲ分擔ス可シ

○第三章　保證ノ義務消滅スル事

〔第九百四十條〕佛國民法第二千三十四條及ヒ第二千三十六條第一項ト同シ

〔第九百四十一條〕保證人ハ債主ヨリ其特權又ハ此他ノ擔保ヲ放棄シタル事アルニ因リ其割合ニ於テ保證ノ義務ヲ免ル可シ（佛國民法第二千三十七條）

〔第九百四十二條〕債主ハ保證人ノ承諾ヲ經スシテ負債主ノ義務ヲ解放セシ時ハ保證人ハ其保證ノ義務ヲ免ル可シ（佛國民法第二千三十八條）

〔第九百四十三條〕債主其保證人ノ承諾ヲ經スシテ負債主ニ延期ヲ與ヘタル時ハ保證人ニ對シ己レカ權理ヲ失フ可シ（佛國民法第二千三十八條ト異ナリ）

○第十五篇　和解

〔第九百四十四條〕雙方ノ者ハ和解ノ契約ニ因リ其雙方ノ間ニ生シタ

ル爭論ヲ了シ又ハ生セントスル爭論ヲ防ク事ヲ得可シ

有印ノ證書ニ記シタル契約義務ニ付キ難論ノ生シタル時ハ有印ノ證書ニ因リ和解ノ契約ヲ爲ス可シト雖モ損害要償ノ訴訟ヲ防カンガ爲メ和解ヲ爲スニハ被害者ニ其償ヲ爲スニ於テハ雙方ノ者ノ口約アルヲ以テ足レリトス（佛國民法第二千四十四條ト異ナリ）

〔第九百四十五條〕 此書第二百六十四條ヲ見ル可シ

遺囑ノ財産執行人及ヒ遺留財産ノ管理人ハ幼者（財産相續人ヲ指シテ云フ）ノ爲メ和解ヲ爲スニハ最モ謹愼ヲ加フ可クシテ容易ニ爲シ得可キ者ニ非スト雖モ其幼者ノ爲メニ正實ノ意ヲ以テ和解ヲ爲シタリト認ムル時ハ幼者ハ其和解ノ契約ヲ許諾スルヿアル可シ（佛國民法第二千四十五條ト異ナリ）

〔第九百四十六條〕 被告人ニ刑罰ヲ受ケシムルノ性質アル詞訟ヲ受理

シタル裁判所ハ原告人ニ被告人ノ犯罪ヨリ生シタル損害ノ償ヲ得サシメ和解ヲ爲スヿヲ允許スト雖モ其雙方ノ者裁判所ノ許可ヲ得スシテ和解ヲ爲シタル時ハ其科罰ヲ受クル者トス（佛國民法第二千四十六條ト異ナリ）

〔第九百四十七條〕 左ノ場合ニ於テハ和解ノ契約ヲ有印ノ證書ニ記セサルモ其和解ノ効ヲ失ハサル可シ

第一 損害ノ償ヲ完濟シタル事

第二 雙方ノ者ノ合意ヲ舉行シタル事

第三 雙方ノ者ノ約定シタル價格アル物品ヲ付與セシ事

第四 其價格ハ先キニ受取リタル物件ノ價格ヨリ少ナカル可カラス（佛國民法第二千四十八條）

〔第九百四十八條〕 英國法律ノ精神ハ可成丈和解ヲ勸誘スルニ在リ（佛國

民法第二千五十二條ト異ナリ

〔第九百四十九條〕和解ノ契約ニ因リ權理ヲ放棄シタル時ハ假令ヒ其權理ヲ保有スルヿアルモ之ヲ以テ其和解契約ヲ取消スヿヲ得ス然レモ契約者雙方ノ中一方ノ者權理ノ己レニ屬スルヿヲ知ラスシテ其權ヲ他ノ一方ノ者ニ付與セシ時ハ衡平裁判所ハ此錯誤ノ故ヲ以テ其權理ヲ復有セシムルヿヲ得可シ又其一方ノ者其權理ノ己レニ屬セサルヿヲ包藏スル時モ亦然リ佛國民法第二千五十三條乃至第二千五十八條ト異ナリ

〔第九百五十條〕和解ノ契約ハ正實ノ意ヲ以テ之ヲ爲ス可シ若シ雙方ノ中一方ノ者他ノ一方ノ者ニ其契約ヲ爲スニ重要ナル事實ノ景況ヲ隱蔽シタル時ハ此一方ノ者ハ其和解契約ヲ取消スヿヲ得

〔第九百五十一條〕衡平裁判所ハ親屬ノ間ニ於ケル和解ノ契約ニ付キ親屬外ノ者ノ間ニ適用ス可キ規則ヲ遵行セシメス而シテ其親屬ノ

正直ナル意旨ナキニ於テハ判斷人ノ裁斷ニ任カスルノ契約ヲ爲スヿヲ許サヽル者トス

〔第九百五十二條〕一方ノ者自己ノ權理ヲ貯有シ和解ノ名義ニ於テ金額ヲ拂ハントト提供セシ事ヲ以テ他一方ノ者ノ權理ヲ承認セシ者トセス何トナレハ凡ソ人自己ノ安寧ヲ計リ金額ヲ拂ヒ以テ其訴訟ヲ避クルヿヲ得可ケレハナリ

○第十六篇　民法上ノ禁錮

〔第九百五十三條〕二十〔リーフル〕以上ノ訴訟ニ付キ原告人ハ其被告人カ負債ヲ充分擔當ス可キ保證人ヲ立テスシテ其訴訟ノ裁判言渡ヲ受ケサル以前英國ヲ立去ントスルノ意趣アル時ハ之ヲ拘留セシメント訴フルヿヲ得可シ佛國民法第二千五十九條乃至第二千七十條ト異ナリ

〔第九百五十四條〕二十〔リーフル〕以上ノ金額ヲ返濟ス可キ裁判言渡ヲ

受ケタル者又ハ地方裁判所ノ法官ニ因リ最初裁判言渡ヲ受ケ尙ホ其言渡ノ金額ヲ辨濟セサルニ因リ更ニ其言渡ヲ受ケタル者ノ身體ニ付テハ其財產上ニ於ケルカ如ク之カ言渡ノ執行ヲ受ク可シ

〔第九百五十五條〕二十〔リーフル〕(訟費ヲ除テ云フ)以上ノ訴訟ニ於ケル權理者即チ原告人ハ其被告人ヲ禁錮セシム可キ命令ヲ受クルヲ得可シ此時ニ方リテハ負債者ハ元利金ヲ完濟スルニ至ル迄又ハ財產擲棄ヲ爲シ全ク資力ナキニ至ル迄ハ牢獄ニ投入セラルヽ者ナリ

〔第九百五十六條〕負債者禁錮ノ言渡ヲ受ケタル後ハ其投獄以前三ケ月間ニ於テ其負債者ノ財產ヲ買入レタル者アルモ此者ハ其財產ニ付キ先取ノ權ヲ行フヲ得ス

〔第九百五十七條〕英國ノ郡長(縣令等)國會議員等ハ負債ノ爲メ逮捕ヲ受ケサルノ權アリトス又代言人證據人及ヒ原被告ハ法官ノ面前ニ在リテ訴訟ヲ取扱ノ時又ハ法官ノ面前ニ往ントシ若クハ退ク時ニ於テ逮捕ヲ受クルヿナシ

〔第九百五十八條〕負債ノ爲メ禁錮ノ言渡ヲ受ケタル者商人ニ非サル歟又ハ商人ナルモ其負債ノ高三百〔リーフル〕以下ナル時ハ其者諸般ノ財產ヲ擲棄シ而シテ其負債ヲ返濟シ能ハサルハ正實ニシテ詐欺ニ出テサル旨ヲ其地ノ破產裁判所ヘ證明シ其禁錮ヲ免ント乞願スルヲ得可シ

○第十七篇　質物ノ事

〔第九百五十九條〕佛國民法第二千七十一條ト同シ

質物ニ二種アリ一ヲ〔ビイフ、ガアジユ〕活質(イキヒチ)ト云フ〔ビイフ、ガアジユ〕譯ストハ義務者其財產ヲ權理者ニ渡シ置キ其財產ヨリ生スル利益ヲ以

テ其負債ヲ皆濟スルニ至ル迄其保證ニ充テ置ク者ナリ然レトモ此種ノ質物ハ現今ニ行ハルヽ甚タ稀ナリ又一ナ「モール、ガアジユ」ト云フ此種ノ質物ハ義務者其約定ノ期限ニ至リ其負債ヲ返濟セサル時ハ其質物ト爲シタル財產ハ權理者ノ所有ニ屬ス可キ事ヲ協議シ置ク者ナリ（佛國民法第二千七十一條ト異ナリ）

〔第九百六十條〕「モール、ガアジユ」ハ動產ノ質物ニ付テ云フ而シテ不動產ノ質物ハ只「モール、ガアジユ」ノ契約書ニ記載シ置ク者ナリ其方法ハ次卷ニ詳ナリ就テ觀ル可シ（佛國民法第二千七十二條）

〔第九百六十一條〕動產ノ質ヲ得タル債主ハ其貸金高ノ返濟ヲ得ル迄ハ質物ヲ保留スルノ權アリテ他ノ債主ノ裁判言渡ヲ得タル者アルモ其質ヲ得タル債主ノ貸金ヲ全ク償却シタル後ニ非サレハ其質物ノ差押ヲ爲スヿヲ得ス（佛國民法第二千七十三條）

〔第九百六十二條〕有形物ト無形物トヲ問ハス之ヲ質ト爲スニハ只其證書ヲ債主ヘ引渡ス事ヲ以テ足レリトス然レトモ正確ニ質ヲ得タル金員ノ貸借ニ付キ弊害ヲ豫防センニハ其質物ノ模樣貸借ノ金高契約者雙方ノ名氏、貸借ノ日附ヲ官ノ帳簿ニ登記シ而シテ其謄本ヲ其負債主ニ付與シ置ク者トス然ラサレハ罰金ノ言渡ヲ受ク可シ（佛國民法第二千七十四條及ヒ第二千七十五條ト異ナリ）

〔第九百六十三條〕債主ハ己レカ手元ニ質物ノ存在スル間ノミ其特權ヲ有スル者トス然レトモ債主過誤ニ出テ質物ヲ保有スルノ權ヲ放棄シタル時ハ其權ヲ復有スルヲ得可シ而シテ契約者雙方ノ合意ヲ以テ他人ニ質物ヲ預置クモ之ヲ以テ債主ノ特權ヲ設定スルニ足レリトス（佛國民法第二千七十六條）

〔第九百六十四條〕佛國民法第二千七十七條ト同シ

〔第九百六十五條〕 負債主期限ヲ定メ負債ヲ拂フ可キ事ヲ協議シタル時ハ此約件ヲ嚴重ニ遵行ス可シ若シ負債主此約件ニ違背スルニ於テハ債主ハ其得タル質物ヲ賣拂フヿヲ得可シ

質物ニ關スル貸借法ニ依レハ契約書ニ負債ヲ拂フ可キ期限ヲ定メ置カサリシ時ハ債主ハ其期限後一箇年ヲ過クルニ於テハ其質物ヲ公賣スルヲ得可シトス（佛國民法第二千七十八條ト異ナリ）

〔第九百六十六條〕 負債主ハ其債主ニ質物ヲ引渡シ置クモ其質物ニ就テハ尙ホ所有者タル可シ而シテ假令ヒ期限ノ滿チタル後ト雖モ元金ト利息ヲ拂ハント提供スル時ハ債主ハ其質物ヲ賣拂フヿヲ得ス（佛國民法第二千七十九條）

〔第九百六十七條〕 佛國民法第二千八十條ト同シ

若シ質物ノ性質ニ從ヒ質取主ノ注意ヲ用ユルニ非サレハ之ヲ取置

クヿヲ得サル者例之ハ牝牛、馬等ヲ質ニ得タル時ハ其償トシテ之ヲ擠奶シ又ハ之ニ乘ルヿヲ得可シ然レトモ使用スルニ因リ耗盡ス可キ物品即チ衣服等ヲ質ニ得テ之ヲ使用スル時ハ質取主其責ニ任ス可シ

〔第九百六十八條〕 同一ノ債主ヨリ更ニ債ヲ負フタル者ハ其新古ノ負債ヲ完濟セサル內ハ其舊債ニ充テタル質物ヲ取戻スヿヲ得ス然レトモ負債主破產ヲ爲シタル場合ニ於テハ其質物ハ舊債ノ償ニ充テタル者ト判決セラレシ事アリ但契約者雙方ニ於テ別段ノ契約アル時ハ此限ニ在ラス（佛國民法第二千八十二條）

〇第十八篇 債主ノ特權及ヒ書入質或ハ「モール、ガアジユ」ノ權

〇第一章 總規則

〔第九百六十九條〕 佛國民法第二千九十二條ト同シ

〔第九百七十條〕義務者破產ヲ爲ス場合又ハ衡平裁判所ノ命令ニ因リ義務者ノ財產ヲ權利者ノ一同ヘ配當スル時ハ佛國民法第二千九十三條ノ規則ト同シ

○第二章　債主ノ特權

○第一款　動產ニ付テノ債主ノ特權

○第一節　總テノ動產ニ付テノ債主ノ特權

〔第九百七十一條〕先取ノ權ヲ得可キ正當ノ原由ハ法律ニ從ヒ財產ヲ現有スルノ權或ハ之ヲ現有スルニ同樣ナル權即チ「モール、ガアランニ」ノ權ニ由リ生スル者ナリ

又右ニ記スル所ト等シク先取ノ權ヲ得可キ正當ノ原由ハ債主ノ分限即チ義務者ノ總テノ財產ニ付キ或ハ單ニ數個ノ動產若シクハ不動產ノミニ付キ最初ニ得タル債主權ノ順序ニ因リ生スル者トス（佛國民法第二千九十四條ト異ナリ）

〔第九百七十二條〕裁判所ヨリ裁判執行ノ言渡ヲ得其言渡書ヲ「セリーフ」（官吏即チ司法及ヒ警察ノ事務ヲ司ル地方官吏）ニ差出シタル債主ハ其負債主ノ動產ニ付キ他ノ權理者ノ最初ニ債主權ヲ得サル者又ハ此負債主ニ對シ同樣ニ裁判言渡ヲ受ケサル者ニシテ其執行ノ言渡ヲ「セリーフ」ニ示サヽル者ヨリ先キニ其返濟ヲ得ルノ權アリ「セリーフ」ハ債主ノ示シタル裁判執行ノ言渡書ニ日子ヲ裏書シ而シテ若シ同日ニ同一ノ負債主ニ係ル裁判執行ノ言渡書數通アル時ハ先キニ之ヲ出シタル債主ヲ以テ先取ノ權アル者トス

最初ニ裁判執行ノ言渡書ヲ呈出シタル者ハ後次ニ之ヲ呈出セシ者ヨリ先キニ返濟ヲ得ル者ニシテ後次ノ執行言渡ニ因リ義務者ノ財產ヲ公賣ニ付スル時ト雖モ亦然リ

同上ノ執行言渡書ヲ〔セリーフ〕ニ呈出スル迄ハ義務者ハ其動産ヲ隨意ニ處置スルヲ得テ義務者正實ノ意ニ出テタル賣買ノ契約ハ其効有リトス（佛國民法第二千九十五條乃至第二千九十七條ト異ナリ）

〔第九百七十三條〕破産ニ就テノ法律及ヒ資力ナキ義務者ニ就テノ法律ハ總テノ債主ヲシテ義務者ノ財産ニ就キ平等ノ分配ヲ受ケシムル者トス

何人タルヲ論セス其義務者破産ノ言渡又ハ裁判執行ノ言渡ヲ受ケタル後ハ義務者ノ財産ニ付キ特別ニ先取ノ權ヲ受クルヲ得ス但シ義務者己ニ其財産ヲ賣拂フタル時ハ格別ナリ

〔第九百七十四條〕衡平裁判所ハ該裁判所ノ權内ニ於テ許認スル債主權ヲ有スル者ニ義務者ノ財産ヲ分配セシムル者トス

〔第九百七十五條〕義務者ノ財産ヲ分配スルニハ財産保有權ヲ原由トス特權者ヲシテ其最モ舊キ者ヨリ順序ヲ定メ返濟ヲ受ケシムル者トス

此他債主タルノ分限ヲ有スル者數人アル時ハ同時ニ分配ヲ受ケシム可シ

〔第九百七十六條〕國王ノ得可キ債主權ト臣民ノ得可キ債主權ト相觸ル、時ハ臣民國王ヨリ義務者ニ對スル訴訟ノ起ラサル以前ニ在テ裁判執行ノ言渡書ヲ〔セリーフ〕ニ呈出セシ時ニ非サレハ國王ヨリ先キニ返濟ヲ受クルヲ得ス但、租税ノ事ニ關シテ王家特別ノ債主權ヲ有スルハ此限ニ在ラス（佛國民法第二千九十八條ト異ナリ）

〔第九百七十七條〕遺囑ノ財産執行人又ハ遺留財産ノ管理人ハ左ニ記スル順序ニ從ヒ死者ノ負債ヲ拂フ可シ

第一　喪式ノ費用

第二　遺囑證書ノ調査又ハ還留財産管理ノ權ヲ得ルニ付テノ費用

第三　裁判言渡或ハ有印證書ニ於テ王家ノ得タル債主權

第四　法律ニ由リ定メタル他ノ債主ヨリ先キニ返濟ヲ得可キ特權

第五　裁判言渡ヨリ生セル債主權

第六　有印ノ證書ニ於ケル契約ヨリ生スル債主權

第七　單一ノ契約ヨリ生スル王家ノ得タル債主權

第八　雇人及ヒ工丁ノ雇賃

破産ノ場合ニ於テハ其破産ヲ爲シタル者ノ僕婢ハ其已ニ受取ル可キ期限ニ至リシ六ケ月分ノ雇賃ヲ他ノ債主ヨリ先取スルノ權アリ

此他ノ雇賃ハ他債主ト共ニ其賃金高ノ割合ヲ以テ平等ノ分配ヲ受ク可シ而シテ破産管理人ハ其義務者ノ財産ニ付キ分配ノ費用高ヲ豫メ扣除スルヿヲ得（佛國民法第二千一百一條ト異ナリ）

他此書第九百八十三條ヲ參觀ス可シ

○第二節　別段定マリシ動産ニ付テノ債主ノ特權

〔第九百七十八條〕土地又ハ家屋ノ所有者（卽チ賃主）ハ其既ニ受取ル可キ期限ニ至リシ一ケ年分ノ賃賃ヲ其土地又ハ家屋内ニ備置キタル借主ノ財産ニ付キ先取スルノ權アリ

此特權ハ所有者其借主ノ動産ニ付キ返濟ヲ得ントノ要求ヲ怠ラサリシ時又ハ借主ヲシテ之ヲ他ニ賣拂ハサラシメタル時ハ借主ノ破産ノ場合ニ於テモ亦其動産ニ付キ債主ノ特權ヲ行フヲ得可シ若シ所有者其要求ヲ爲サス又ハ借主之ヲ賣拂フタル時ハ他債主ト平等ノ配分ヲ受クル者トス

破産管理人ハ其計算ヲ得ン爲メ破産者ヨリ期限ヲ定メ土地賃借ノ權ヲ受取ルノ權アリ此場合ニ於テハ此土地ヲ賃借スル期限内ニ於

ケル収納ニ付テハ其責ニ任ス可シ又該管理人ハ土地ノ賃借ノ權ヲ受取ルヿヲ肯セスシテ其土地保有ノ權ヲ他人ヘ貸渡シ同上ノ責ヲ免ル、ヲ得可シ

土地又ハ家屋ノ所有者ハ三十箇年ノ期限ヲ經過セサルニ於テハ借主其土地又ハ家屋ヨリ隱謀譎欺ヲ以テ取除キタル動產ニ付キ特權ヲ得ント求ムルノ權アリ（佛國民法第二千二條第一項ト異ナリ）

佛國民法第二千百二條第二項ト同シ

〔第九百七十九條〕賣主代價ヲ得可キノ期限ヲ定メスシテ動產ヲ賣渡シタル時ハ其買主之ヲ保有スル間ハ賣主ヨリ其賣タル動產ニ付キ其特權ヲ有ス可シ（佛國民法同條第四項ト異ナリ）

〔第九百八十條〕佛國民法第二千百二條第六項ト同シ

銀行ハ其保證ヲ爲ス者ノ金高ヲ保有スル間ハ其金高ニ付キ特權ヲ

行フ可シ又工丁製作人ハ其賃料ヲ得ン爲メ其製造スル物件ヲ保有スル間ハ此物件ニ付キ其特權ヲ行フ可シ○凡ソ物件ノ保有權ヲ放棄セシ者ハ債主ノ特權ヲ失フヿヲ通則ナリトス

○第二款　不動產ニ付テノ債主ノ特權

〔第九百八十一條〕不動產ノ賣主ハ買主ニ對シ其價ヲ求メ而シテ買主猶ホ其價ヲ拂ハサル時ハ其賣リタル財產ニ付キ特權ヲ得可シト雖モ正實ニシテ要償ノ契約ニ於テ其財產ヲ買入レ而シテ其代價ノ求ヲ受ケサル者ニ付テハ然ラス又賣主別ニ擔保ヲ受ケタル時ハ暗ニ先取特權ヲ放棄セシ者ト判決セラレタリ（佛國民法第二千百三條第一項ト異ナリ）

佛國民法第二千百三條第三項ト同シ

〔第九百八十二條〕建築物ヲ造營スル爲メ又ハ之ヲ修理スル爲メ若クハ之ヲ買得スル爲メ金員ヲ貸與セシ者ハ其建築物ニ付キ別段債主

ノ權ヲ有スルヿナシ然レ𪜈財產共有者中ノ一人他ノ共有者ノ默諾又ハ明諾ニ出テ總テ共有者ノ利益ヲ計リ其財產ニ費用セシ金員アル時ハ此不動產ヲ分派スルニ方リ其費用ノ償ヲ得ルノ特權ヲ有ス可シ又財產管理人契約者雙方ノ契約又ハ裁判所ノ命令ニ因リ委託セラレタル不動產ニ付キ其費用シタル金員ヲ得ルノ特權ヲ有スル者トス（佛國民法第二千百三條第四項第五項ト異ナリ）

〔第九百八十三條〕此書第九百七十七條以下ニ例記セル債主ノ特權ハ官署ノ帳簿ニ登記スルヲ必要トセス（佛國民法第二千百六條乃至第二千百三條ト同シ）

〔第九百八十四條〕船舶ノ書入質ハ別段ノ法律ニ由リ規定ス（佛國民法第二千百二十條）

〔第九百八十五條〕往時ニ在リテハ寡婦ハ其夫ヨリ受可キ遺婦產タル不動產ニ付キ其結婚以前ヨリ此不動產ニ特權ヲ有セサル債主ニ先

タヲ特權ヲ受クル者トナシタリキ然レ𪜈近時ノ制定法ニ依レハ夫ノ存命中又ハ遺囑證書ニ由リ夫ノ負フタル債又ハ義務ハ寡婦其夫ノ財產ニ付テノ權理ヲ執行スル以前ニ於テ之ヲ返濟ス可シトス（佛國民法第二千百二十一條ト異ナリ）

〔第九百八十六條〕後見人職務ヲ行フニ方リ幼者ニ債ヲ負フノ故ヲ以テ後見人ノ財產ヲ法律上ノ書入質ト爲スヿナシ

幼者ハ其後見人ニ對シ返濟ヲ得ントスルニハ只委託人ニ對スルト等ク通常ノ訴訟手續ヲ爲ス可シトス

〔第九百八十七條〕然レ𪜈委託人自己ノ爲メ己レニ委付セラレタル金員ヲ以テ不動產ヲ買求メタルハ委託ノ權內ヨリ成リタルノ證書ナシ又ハ其權內ニ於テ之ヲ買求メタルヿヲ認許セラレサル時ハ此不動產ハ委託事件ヲ執行スルノ抵償トナシタル者トシ本人ハ此不動

産ニ付キ他ノ債主ヨリ先ニ特權ヲ行フ可シ

夫委託ノ名義ニ於テ其婦ニ屬スル金員ヲ受取リ之ヲ以テ不動産ヲ買求メタル場合ニ於テモ其金員ヲ以テ之ヲ買求メタルノ證アル時ハ亦同樣ナリ

又同上ノ規則ハ代理人本人ヨリ委付セラレタル資本金ヲ以テ其買求メタル物件ニ付テモ之ヲ適用ス可シ

然レトモ委託ノ契約アリシヿヲ知得セスシテ其受託者ノ保有スル不動産ヲ買求メタル者ハ其委託者ヨリ訴訟ヲ受クルヿ無カル可シ

〔第九百八十八條〕 王家ハ其負債主ノ不動産何人ノ手ニ存在スルモ裁判言渡、法令又ハ契約或ハ職務ノ諾認ヨリ生ス可キ義務ヲ示記スル帳簿ニ其負債ヲ記入セシ時ハ其不動産ニ付キ先取ノ權ヲ有ス可シ

佛國民法第二千百二十一條ト異ナリ

〔第九百八十九條〕 裁判言渡ヲ得タル債主ハ其負債主ノ現ニ所有スル不動産又ハ後ニ所有スルヿアル可キ不動産ニ付テハ皆裁判言渡ヲ記入スル爲メ設ケタル簿冊ニ記入セシ日ヨリ先取ノ權ヲ有ス可シ」

往昔ハ各裁判所ニハ各其裁判言渡ヲ記入スル簿冊アリト雖モ今時ニ在テハ「ウエストミンストル」即チ最上裁判所ニ於テ一般ノ裁判言渡ヲ記入スル簿冊ヲ管守ス此簿冊ニハ普通法裁判所及ヒ衡平裁判所ノ裁判言渡及ヒ命令ヲ記載ス可キ者ニシテ此記入ノ功効ハ英吉利全國ニ於ケル負債主ノ財産ニ及ホス可キ者ナリ

記入トハ義務ヲ行フ可キ者ノ名氏、職業、裁判又ハ命令ヲ言渡シタル裁判所ノ名、其言渡ノ日附、負債ノ高ヲ表記スル者ナリ此記入ノ簿冊ニハ義務ヲ行フ可キ者ノ財産ハ裁判言渡又ハ命令ニ因リ低價ト爲サレタルヿヲ番號ニテ表記スル者ナリ而シテ何人タルヲ問ハス一

「シルリンク」ヲ出シ此簿冊ニ付キ調査スルヿヲ得
裁判執行ノ命令ヲ得タルニ因リ裁判所ノ職權ニ依リ命シタル中裁
人ノ判斷ハ裁判言渡ト同一ノ効力ヲ生ス可シ
外國裁判ニ於テ言渡シタル裁判ハ英國裁判所之カ當否ヲ判決シタ
ル上ニ非サレハ其効力無カル可シ
然レ𪜈外國裁判所ノ言渡シタル裁判又ハ命令ハ其記入ヲ爲シタル
後一箇年ヲ經ルニ非サレハ權理者其義務者ノ財産ニ付キ當然先取
ノ權アリトセス何トナレハ此記入セシ一箇年ノ内ニ於テ義務者破
産ヲ爲ス時ハ先取ノ權ヲ得サレハナリ（佛國民法第二千百二十三條ト異ナリ）

○第三章　書入質ノ權

〔第九百九十條〕○第一款　契約者雙方ノ間ニ於ケル書入質ノ功効
書入質トハ金員償還ノ保證トシテ不動産ヲ權理者ニ

渡ス可キ責務ニシテ義務者ノ財産所有權ヲ權理者ニ移轉シ而シテ
義務者約定ノ期限ニ於テ其金員ヲ返償スル時ハ其所有權ヲ復有ス
ルノ約件ニ於テ成ル者ナリ其財産ヲ典賣スル者ヲ「モルカジヨール」
質入主ト云ヒ之ヲ領収スル者ヲ「モルカジスト」ト云フ（佛國民法第二千百二十四條ト異ナリ）
〔第九百九十一條〕普通法ニ依レハ書入質ト爲シタル土地ハ質入主其
約定ノ期限ニ至リ返金ヲ爲サヽル時ハ當然質取主ノ所有ニ屬ス可
シト爲スモ衡平裁判所ハ質入主ヲシテ此嚴法ヲ免レシムルヿアリ
若シ契約者雙方ノ意趣ハ眞ニ書入質ヲ設定スルニ在リシト認ム可
キ者アル時ハ該裁判所ハ義務者ニ相當ノ延期ヲ與ヘ元利金及ヒ費
用ヲ權理者ニ償還セシメ以テ其財産ヲ買戻サシムルヿヲ得
此義務者ノ利益ヲ計リ許與シタル買戻シノ權即チ「エキテードレタ

ンプシヨン」ハ義務者ノ相續人及ヒ代權人之ヲ行フヿヲ得

〔第九百九十二條〕 法律ノ原則ニ於テハ質取主ハ其書入質ノ成立セシ時ヨリ直ニ其財產ヲ保有スル權アリト雖モ實際之ヲ保有スルハ甚タ稀ナリ何トナレハ質取主ハ貸金ノ償還ヲ受クル時ハ其財產保有シ得ス又質取主ハ質入主其返金ノ期限ニ至ル迄他ノ債主ニ因テ靜謐ニ其財產ヲ存有シ得サル時ハ其質入主又ハ其代權人ニ對シ隨意ニ此財產ヲ奪取リ之ヲ保有スルノ權アレハナリ

若シ質取主其財產ヲ保有スル時ハ其收益ヲ質入主ニ計算ス可シ而シテ其收益ヲ以テ貸金ノ利子ヲ受ケタル後ハ質取主ヨリ其收益ノ殘額ニ付キ每年利子ヲ拂フ可シ○質入主ハ其財產ニ必要ナル場合ニ於テ之カ賃貸ヲ爲スノ外其質取主ヘ返金ノ期限ニ超過スル時限ニ於テ其賃貸ヲ爲スニ及ハサル可シ

質入主其質取主ノ許諾ニ因テ其財產ヲ保有スル時ハ其財產ノ入額ヲ質取主ニ計算スルニ及ハス又質入主ノ財產ヲ借入レタル者ハ其財產ノ書入質タルノ報通ヲ得サル限リハ其入額ヲ質入主ニ拂フ可キ者トス

〔第九百九十三條〕 貸金ノ期限滿ナタル時ハ質取主ハ其質入主ニ其質物ヲ請戻サシメン爲メ之ヲ衡平裁判所ヘ召喚セシムルヲ得若シ質入主其質物ヲ請戻サヽルニ於テハ正ク其財產所有者タルノ權ヲ失フ可キ者トス

〔第九百九十四條〕 質入主契約書ニ於テ若シ期限ニ至リ返金セサル時ハ其書入質ト爲シタル財產ヲ賣却スルノ權ヲ質取主又ハ其受託人ニ付與スルノ約件ハ衡平裁判所ニ於テ許認スル者ナリ

同上ノ場合ニ於テ其財產ヲ賣却ス可キノ權ヲ得タル受託者ハ質入

主ニ其旨ヲ通知スルヲ必要ナリトス然レトモ其財産賣却スルノ權ヲ有スル質取主ハ其旨ヲ通知スルニ及ハサル可シ但シ別段ノ契約アル時ハ此限ニ在ラス

〔第九百九十五條〕 總テ物件ニ關スル財産即チ「デサム」寺院又ハ侯家ニ納ムル可キ土地收額ノ十分一ヲ云フ又ハ土地入額等ノ如キ無形物ノ權利ハ書入質ト爲スヲ得又之カ買戻シノ權ヲ行フヲ得可シ又不動産賃貸ノ權及ヒ物件上ノ家産ト名クル此他ノ財産モ亦書入質ト爲スヲ得可シ

〔第九百九十六條〕 動産モ亦質取主ノ保有トナル時ハ之ヲ書入質ト爲スヲ得ルト雖モ此種ノ契約ハ單純質物ノ契約タル者トス

〔第九百九十七條〕 後日所有スル事アル可シト冀望スル所ノ事物ハ書入質ノ目的ト爲スヲ得ス

〔第九百九十八條〕 傳遺ノ契約アル財産ノ領有者ハ其傳遺ヲ受ク可キ者ニ關セス此財産ヲ書入質ト爲スヲ得遺囑ノ財産執行人ハ其遺囑者ノ財産ヲ隨意ニ書入質ト爲スヲ得可シ佛國民法第二千百二十五條ト異ナリ

〔第九百九十九條〕 詐僞律ニ依レハ書入質ハ土地ニ關スルノ契約ト等シク書面ニ因リ之ヲ契約ス可シトス然レトモ衡平法ニ於テハ負債主其物件所有權ノ證書ヲ低償トシテ債主ニ預ケ置クヿノミヲ以テ其書入質ノ契約ニ付キ書面ナシト雖モ債主ハ其物件ニ付キ先取ノ特權ヲ有スル者ト看做セリ佛國民法第二千百七條ト異ナリ

〔第千條〕 書入質ノ權ハ負債高ノ定リタル時又ハ其高ノ內ニ於テ全部ヲ拂ヒ渡サヽルモ已ニ拂渡シタル幾部ニ付キ其効有リトス但シ此最端ノ場合ニ於テハ現ニ拂渡シタル金高ニ付テノ外ハ其効無カル可シ佛國民法第二千百三十三條

○第二款　書入質ノ權ノ順序

〔第千一條〕法律ノ原則ニ於テ先ニ得タル書入質ノ權ハ後ニ得タル書入質ノ權ヨリ先班ニ置カルヽ者ナリ是レ「キプリヤ、エスト、インタンポレー、ホナヲル、エスト、イン、ジユレー」ノ格言ニ據ル所ナリ第一番ノ質取主ハ其書入ト爲シタル財產所有權ノ證書ヲ保有スルヲ以テ第二番ノ質取主ニ其已ニ書入質ノ成立シアルヿヲ知ラシムル者トス

佛國民法第二千百三十四條ト異ナリ

〔第千二條〕質入主其所有權ノ證書ヲ質取主ニ引渡サスシテ之ヲ存有シ最初ノ質取主ハ許諾ト怠惰トヲ問ハス其質入主ヲシテ第二番ノ質取主ニ其已ニ書入質ノ成立シアルヿヲ通知セシメサル時ハ質入主其第二番ノ質取主ヲ欺罔スルヲ幫助セシ者ト看做ス可シ此時ニ方リテハ第二番ノ質取主先班ノ權ヲ得可シ

已ニ財產ヲ書入質ト爲シアル事ヲ後ノ質取主ニ書面ヲ以テ通報セサル質入主ハ其質取主ニ對シ財產買戻シノ權ヲ失フ可シ

第三番ノ質取主其契約ヲ取結フニ方リ第二番ノ書入質ト爲リアルヿヲ知ラスシテ第一番ノ質取主ヨリ其書入質ノ權ヲ買得タル時ハ第二次ノ質取主ヨリ先班ノ權ヲ得テ其第一次ノ貸金高ノミナラス第三次ノ貸金高ニ付テモ特權ヲ行フヲ得可シ何トナレハ其第二番ノ質取主カ第三番質取主ニ曾テ財產ノ質入タルヿヲ知ラシメス全ク其注意ヲ缺キタルカ故ナリ且又第三番ノ質取主ハ其第一番ノ書入質ノ權ヲ己レニ買求メタルカ故ニ第二ノ質取主ニ先タチ其財產ノ所有權ヲ保有スル者ナレハナリ

〔第千三條〕財產ヲ書入質ト爲ス者ハ最初ノ質取主ニ後次ノ書入質ト爲シタルヿヲ書面ニ因リテ通報ス可シ而シテ其書面ハ證書ニ加附

スル者ニシテ是ヲ以テ後次ノ質取主ニ其旨ヲ知ラシムルヲ習慣ト

後次ノ書入質ノ債主其財産ノ已ニ書入質ト爲シアルヿヲ負債主或ハ證書ニ因リ了知シタル時ハ確正ナル報知ヲ受ケタル者トシ又同上ノ債主其旨ヲ了知シタリトノ景況アル時ハ之カ報知ヲ受ケタル者ト看做ス可シ

代人ニ其報知ヲ爲シタル時ハ本人ニ爲シタルノ効アル可シ

證書ノ何人ノ手ニアルヿヲ通報セサル質取主ハ假令ヒ其證書ノ所在ヲ知ラサルモ之ヲ了知スル者ト看做ス可シ

○第三款　第三ノ人ニ對スル書入質ノ効

〔第千四條〕書入質ト爲シタル財産ノ買主ハ質取主ニ對シ其財産ニ付キ賣主ノ負フタル義務ヲ引受ケタル者トス但賣主ニ係リ訴訟ヲ爲

スハ此限ニ在ラス

同上ノ買主ハ財産ノ書入質ト爲ル事ヲ代價ヲ拂ハサルノ以前ニ發見スルカ又ハ其財産ノ質取主其財産ヲ以テ返濟ヲ受ケタルヿヲ知リタル時ハ賣主ニ代價ヲ拂フニ及ハサル可シ

若シ買主其財産ノ書入質ト爲シアルヿヲ知ラサルヲ以テ其代價ヲ拂ヒタリト雖モ其質取主ノ普通書入質ノ規則ニ從ハサル時ハ假令ヒ財産所有權ノ證書ヲ所持スルモ其買主ニ對シ書入質ノ權ヲ行フヲ得ス

買主其賣買ヲ爲スノ際書入質ト爲リタルヿヲ知リタル時ハ假令ヒ其財産ノ所有權ノ證書ヲ所持セサルモ賣主ノ負フタル諸般ノ義務アル財産ヲ買受ケタル者トス然レモ書入質ト爲リアルヿヲ知ラス轉輾シテ之ヲ買受ケタル者ハ其意正實ニ出テ之ヲ買受ケタル時ハ質

主ニ對シ其賣主ノ義務ヲ負ハサル者トス又所有權ノ證書ヲ附加セサル書入質タル事ヲ知ル者其財産書入質タルヿヲ知ラスシテ買受ケタル者ヨリ之ヲ買求タル時ハ質取主ヨリ訴訟ヲ受クルヲ免レタル最初ノ買主ノ權ニ代リタル者ト同視セラル可キナリ（佛國民法第二千百六十六條乃至第二千百七十九條ト異ナリ）

〔第千五條〕負債主ノ曲者タル裁判言渡ヲ官ノ簿冊ニ記入スル以前又ハ負債主破産ノ言渡ヲ受クル以前ニ於テ正實ノ意ヲ以テ享有シタル質取主ノ權理ハ此裁判言渡ノ爲メ害セラルヿナシ

○第四款　書入質ノ權ノ終ル事

〔第千六條〕佛國民法第二千百八十條第一項及ヒ第二項ト同シ

〔第千七條〕書入質ノ權理者其不動産ヲ負債主ノ保有ニ爲シ置キ自己ノ權理ヲ知ラス且ツ其貸金ノ利息ヲモ受クルヿナクシテ二十年間

ヲ經過セシ時ハ已ニ計算ヲ了ヘタル者ト看做ス可シ

負債主ノ有スル財産買戻ノ權ハ質取主其財産ヲ保有セシ後二十箇年ヲ經過スルヲ以テ終ル者トス（佛國民法第二千百八十條第四項ト異ナリ）

〔第千八條〕質取主其負債主ヨリ期限ニ至リ辨濟ヲ爲サヽルニ於テハ其不動産ヲ賣却シ得可キノ約諾ヲ得タル時ハ此不動産ノ賣買ニ由テ書入質ノ權ヲ終ル者トス（同上第五項ト異ナリ）

〔第千九條〕書入質ノ權ハ負債主期限ニ至リ返濟ヲ爲サヽルカ故ニ其財産ニ付キ所有者タルノ權ヲ奪フ可キノ裁判言渡ニ由テ終ル者トス此場合ニ於テハ質取主ハ其書入質ト爲シタル財産ニ付キ確正ノ所有者タル可シ然レ𪜈衡平裁判所ハ左ニ記スル場合ニ於テ同上ノ所有者タルノ權ヲ奪フ可キ裁判言渡ヲ爲サスシテ其負債主ノ不動産ヲ抵償トシテ奪フ可キ事ヲ命令スルヲ得可シ

第一　書入質ト爲シタル財産負債ヲ償フニ充分ナラサル時

第二　書入質ノ負債主死去シ其財産負債ヲ償フニ充分ナラサル時

第三　同上ノ負債主死去セシ後其財産幼者ニ歸屬ス可キ時

第四　書入質ト爲シタル財産期限ヲ定メタル入額所得ノ權ニ止マル時

第五　書入質ト爲シタル物件「パトロナアジエ」首長權ノ權即チ寺院ノ役員ヲ撰擧スル權等ノ如キ者ナル時

第六　書入質ノ權理者破産ヲ爲シタル時

第七　書入質ノ權ヲ保證スルニ財産所有權ノ證書ノミヲ保有スル時

近時ノ制定法ニ依レハ衡平裁判所ハ質取主ノ請求又ハ承諾ニ因リ或ハ質入主又ハ後次ノ質取主ノ請願ニ因リ相當ト思慮スル場合ニ

於テ質入主ニ財産所有權ヲ奪ハスシテ單ニ其財産ヲ賣拂フ可シト命令スルヲ得

〔第千十條〕書入質ト爲シタル不動産ノ買主ハ質取主ニ對シ賣主ノ有スル買戻ノ權ヲ行フヲ得可シ

後次ノ書入質ノ債主又ハ書入質ノ財産ニ付キ後ニ裁判言渡ヲ受ケ之ヲ官ノ簿冊ニ記入シタル債主ハ最初ノ書入質ノ債主ニ對シ同上買戻ノ權ヲ行フヲ得可シ

同一ノ債主ニシテ數次ニ同一ノ財産又ハ數個ノ財産ニ付キ書入質ノ權ヲ有スル者アル時ハ負債主ノ相續人其負債ヲ完濟スルニ非サレハ其財産ヲ買戻スヲ得ス又他人ヘ對シ所有權ナキ財産ニ付テモ亦同樣ナリ

同上ノ相續人又ハ遺囑財産ノ執行人ハ其書入質ノ金高ノミナラス

其書入質ノ契約ヨリ生スル此他ノ費額ヲ債主ニ完濟スルニ非サレハ其書入ト爲シタル財産ヲ買戻スヲ得ス此書入質ノ負債主ニ在テハ其費額ヲ拂フヿナクシテ其財産ヲ買戻スヿヲ得可キモ其相續人等ハ之ヲ拂フニ非サレハ其財産ヲ買戻スヿヲ得ス

書入質ノ義務者又ハ其代權人ハ其書入質ト爲シタル財産ニ付キ所有者タル權ヲ奪フ可キノ裁判言渡ヲ受ケサル間ハ裁判所ニ至リ債主ニ返濟ス可キ金員ヲ現出シ其財産買戻ノ權ヲ行フヲ得

書入質ノ負債ヲ返濟スル時ハ質取主ヨリ質入主ニ書入ノ財産所有權ヲ返還スルヲ必要ナリトス其所有權ヲ返還スル事ハ負債返償ノ後久ク時限ヲ經ルニ於テハ推測ヲ以テ之ヲ定ムルヲ得

已ニ義務ノ返濟ヲ受ケタル書入質ノ債主其書入質ノ不動産又ハ其書入質ノ證書ヲ抑留シテ返還セサル時ハ此債主ハ書入質ヲ爲シタ

ル者ノ委託者ト看做ス可シ

○第十九篇　義務者ノ不動産ヲ抵償トシテ奪フ事

〔第千十一條〕裁判言渡ヲ得タル權理者ハ己レニ受ク可キ義務ノ高ニ至ル迄義務者ノ動産ヲ賣拂ハシムル爲メ又ハ其不動産保有ノ權ヲ己レニ得ン爲メ裁判所ニ訴ヘ「セリーフ」ニ此旨ヲ通報ス可キ命令書ヲ受クルヿヲ得

義務者ノ不動産ヲ賣拂フ事ニ關シテハ「セリーフ」ハ裁判所ノ命令ニ由リ陪審司ヲ召集シ以テ其不動産ヲ評價セシムル者トス此義務者ノ動産ハ運車ノ用ニ供スル牛其他ノ獸類ヲ除クノ外皆之ヲ權理者ニ引渡シ若シ此動産ノ價格其負債ヲ償フニ足ラサル時ハ土地ヲモ引渡シ而シテ權理者ハ其完濟ヲ受クル迄又ハ義務者此土地ニ付キ入額所得ノ權ノミヲ有スル時ハ其權ノ終ル迄此土地ヨリ生スル入

額及ヒ利益ヲ收有セシムル者トス

動產即チ人權上ノ財產ニ關スル時ハ最モ簡略ナル執行法アリテ裁判所ノ命令書ニ記載スル者ナリ〔リイト、ヲフ、フエリー、ハアシアス〕之ヲ約言シテ〔ヒフア〕ト名クル命令書即チ是ナリ〔セリーフ〕此命令書ヲ得タル時ハ陪審司ノ介入ヲ要セスシテ負債主ノ財產ヲ賣拂フヿヲ允許スル者タリ（佛國民法第二千二百四條乃至第二千二百十八條ト異ナリ）

〔第千十二條〕權理者其義務者ノ土地差押ヲ爲シタル後ハ其義務者ニ民事上ノ禁錮ヲ行フヿヲ得ス

〔第千十三條〕義務者ノ土地ヲ保有スル權理者ハ他ノ權理者ニ先タチ債主ノ特權ヲ得可シト雖モ斯ク抵償トシ以テ之ヲ奪フ可キノ裁判言渡ヲ官ノ簿冊ニ記入シタル後一箇年ヲ經過スルニ非サレハ其不動產ヲ賣拂ハシメント衡平裁判所ニ訴フルヲ得可カラス

〔第千十四條〕衡平裁判所ハ義務者土地ノ入額ノミヲ以テ相當ノ期限ニ於テ負債ヲ償フヿヲ得サル時ハ其土地ヲ賣拂ハシムル者トス

○第二十篇　期滿免除ノ權

○第一章　總規則

〔第千十五條〕期滿免除ノ功効ハ佛國民法第二千二百十九條ノ規則ト適合ス

〔第千十六條〕佛國民法第二千二百二十一條ト同シ

〔第千十七條〕普通法裁判所ニ於ケル詞訟及ヒ衡平裁判所ニ於ケル人權上ト物權上トヲ問ハス總テ期滿免除權ヲ得タリトノ申立アル時ハ其申立ヲ排棄セシムル爲メ之カ訴訟ヲ爲ス可シ（佛國民法第二千二百二十三條及第二千二百二十四條）

〔第千十八條〕普通法ニ依レハ王家ノ得可キ權理ニ付テハ期滿免除ノ

權ヲ得可カラストス然レトモ近時ノ制定法ヲ觀ルニ土地ニ關シ王家ノ得可キ權理ハ六十年ノ久キヲ經テ終ル者トス此他官舍、結社、共會ノ得可キ權理ハ常人ニ於ケルト等ク期滿免除ノ權ヲ得可シトス

○第二章　物件保有ノ權

〔第千十九條〕家賃地代ヲ收獲スル權アル者ハ其家屋土地ノ保有權ヲ有スルニ等キ者トス

家屋又ハ土地ノ所有者其家賃又ハ地代ヲ得ルヿヲ怠ル時ハ其家賃又ハ地代ヲ得可キ期限ヨリ期滿免除ノ權ヲ起算ス可シ（佛國民法第二千二百十八條）

〔第千二十條〕往時ニ在テハ物件保有者其物件ノ所有者ヨリ證書ヲ受取リ其物件ヲ保有セサル時ハ期滿免除ノ權ヲ得タリト訴フルヲ得サリシナリ然レトモ近時ノ制定法ニ依レハ物件保有ノ權ニ付テハ其物件ノ性質如何ヲ問ハス土地ニ關スル期滿免除ノ權ヲ以テ充分ナリトス（佛國民法第二千二百二十五條ト異ナリ）

〔第千二十一條〕人ヨリ單ニ宥恕ヲ得テ物件ヲ保有スル者ハ其宥恕ヲ得タルヿヲ了知スルニ於テハ期滿免除ノ權ヲ得可カラス（佛國民法第二千二百三十二條ト異ナリ）

〔第千二十二條〕詐欺ヲ以テ物件ヲ保有シタル者ハ期滿免除ノ權ヲ得可カラスト雖モ物件所有者ヨリ其詐欺ヲ發見セシ後相當ノ處置ヲ爲シ得可キ時限ヨリ期滿免除ノ權ヲ得可キ者トス（佛國民法第二千二百三十三條）

〔第千二十三條〕佛國民法第二千二百三十五條ト同シ

○第三章　期滿得免ノ權ヲ得ルヿ能ハサル原由

〔第千二十四條〕此書第千二十條乃至第千二十二條ヲ參觀ス可シ（佛國民法第二千二百三十六條）

〔第千二十五條〕 傳遺ノ契約者ハ其名義ニ於ケル財產ヲ抑留スルヿアルモ期滿免除ノ權ヲ得可カラスト雖モ其契約者ヨリ價ヲ拂ヒ之ヲ買求タル者ハ其權ヲ得可シ（佛國民法第二千二百三十九條及ヒ第二千二百四十條）

○第四章　期滿免除ノ期限ヲ停止スル原由及ヒ其期限ノ經過スルヲ中斷スル原由

○第一款　期滿免除ノ期限ヲ停止スル原由

〔第千二十六條〕 土地所有者一箇年間土地ノ義務ヲ得ルノ權ヲ奪ハレタル時ハ期滿免除ノ期限ヲ停止シタル者トス（佛國民法第二千二百四十三條）

〔第千二十七條〕 期滿免除ノ權ニ付キ普通法裁判所及ヒ衡平裁判所ヘ訴訟ヲ爲シタル時ハ之ヲ以テ其權ヲ停止スル者トス

土地ノ義務ニ付テハ期滿免除ノ權ヲ停止ス可キノ證書アルモ其義務ヲ得可キ權アル者一箇年內ニ於テ其義務ヲ行フ可キ者ノ承認ヲ

得サル時ハ其證書ノ効無カル可シ（佛國民法第二千二百四十四條ト異ナリ）

〔第千二十八條〕 佛國民法第二千二百四十八條ト同シ

物件ノ保有者其物件所有者ノ代權人ニ負債ノ全部又ハ一部ヲ拂フタル時ハ期滿免除ノ權ヲ停止ス可シ

○第二款　期滿免除ノ期限ヲ中斷スル原由

〔第千二十九條〕 幼者、結婚ノ婦、精神ヲ喪失セシ者、囚人又ハ海外ニ滯留シテ本國ニ不在スル者及ヒ其者等ノ代理人事故アリテ其用務ヲ措置シ能ハサル間又之ヲ措置シ得可キニ至リシ時ヨリ十ケ年ノ間ハ同上ノ者ヘ對シ期滿免除ノ期限ヲ中斷ス可シ但此期限ヲ中斷スルモ四十ケ年ノ時限ヲ超過ス可カラス

然レトモ能力者ニ對シテ行フ可キ期滿免除ノ權ハ其者後ニ不能力者ト爲ルヿアルモ之ヲ以テ其期限ヲ中斷ス可カラス（佛國民法第二千二百五十二條ト

異ナリ

〔第千三十條〕三箇年以上ノ期限ニ於テ入額所得ノ契約アル財產又ハ賃借ノ契約アル財產ニ付テハ其所有者ニ對シ通常ノ期滿免除ノ權ヲ行フヲ得ス

〔第千三十一條〕通常ノ期滿免除ノ權ヲ得可キ二十箇年ノ期限ハ望下ノ權ニ付キ何人ヘ對シテモ之ヲ行フヲ得可シ

○第五章　期滿免除ノ權ヲ得ルニ必要ナル期限

○第一款　總規則

〔第千三十二條〕佛國民法第二千二百六十條及ヒ第二千二百六十一條ト同シ

凡ソ期滿免除ノ權ヲ得ルニ必要ナル期限ハ其權ノ成立スル初日ヲ計算セス而シテ其權ニ付テノ訴訟ハ期限ノ終ル可キ日ノ以前ニ於テ之ヲ爲ス可シ

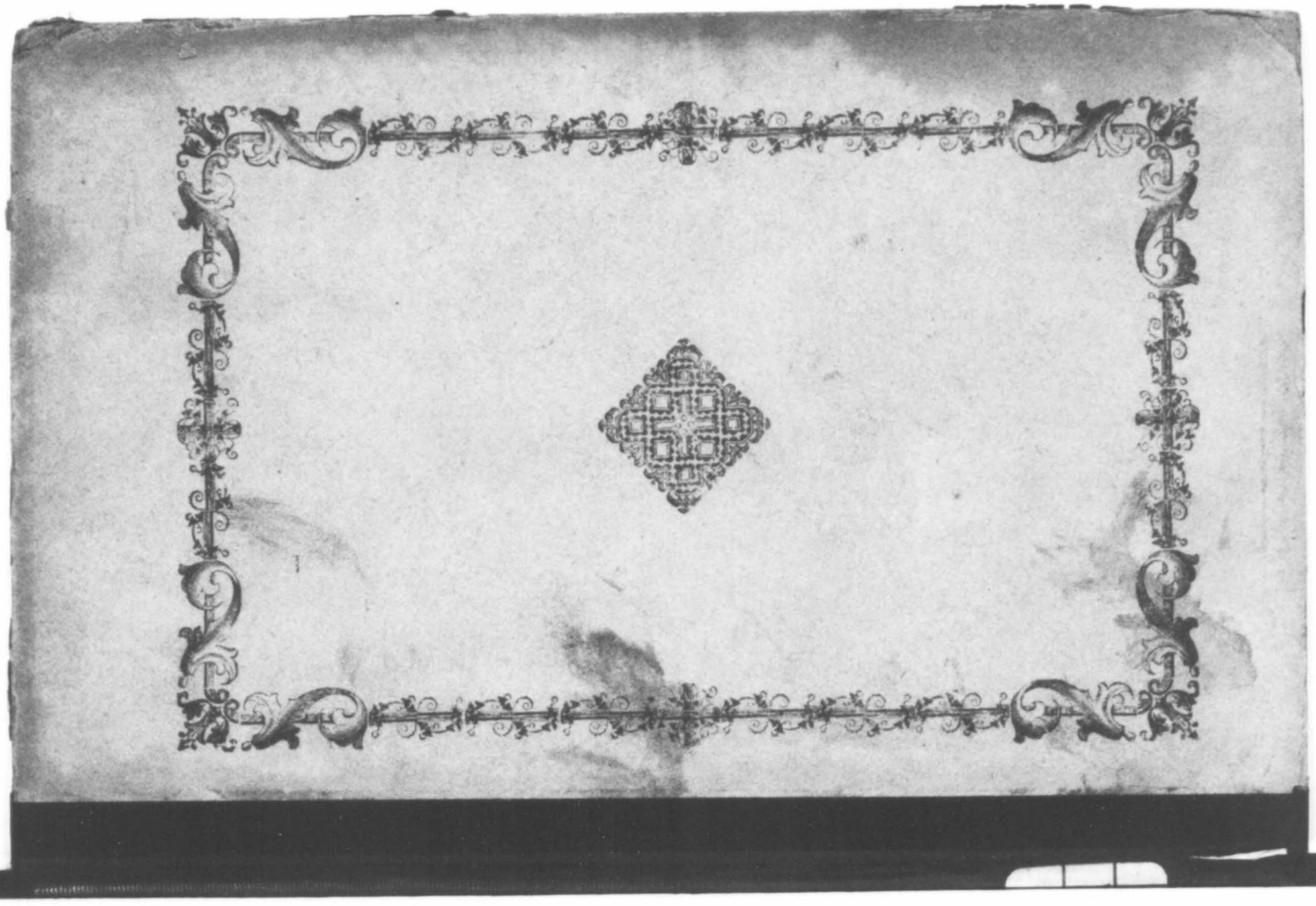
○第二款　各種ノ期滿免除ノ權

〔第千三十三條〕物權及ヒ人權即チ入額ヲ所得スルノ權、有印證書ニ於ケル契約ノ義務、財產贈遺及ヒ財產相續ノ權ニ付テノ訴訟ハ二十年ヲ以テ期滿免除期限ナリトス

計算ノ事ニ付キ又ハ口約或ハ有印ノ證書ニ由ラサル契約及ヒ要償ノ訴訟ハ十箇年ヲ以テ期滿免除ノ期限トシ毆打創傷此他ノ犯罪ニ付テノ訴訟ハ四年又誹謗ニ付テノ訴訟ハ二年ヲ以テ期滿免除ノ權ヲ得可キ期限トス（佛國民法第二千二百六十二條）

英佛民法異同條辨終

明治十五年六月三日版權屆

帝國圖書館藏

昭和4年
第2740號
11月1日受入